

2015年10月6日

9月7日に述べたように、最近の世界の異常現象は、どうも地球内部のマントル対流の変化によるものではないかと言う記事を書いたが、この考えを裏付ける方法がないものかと思う。マントル対流の変化により海洋の地殻表面の温度が上がったのではないかと考えている。これを検証するには近く表面の温度が測定できればいいのかもしれない。ただ表面の温度では太陽光に暖められたことによる影響が出易いので、地下数メートルあたりの温度を測定することが望ましい。これは全世界で測定点を決めて経時変化を観察すればよいが、これはかなり大規模な観測網を作ることが必要であり、なかなか難しい。人工衛星を使って赤外線放射線により観測は出来ないだろうか？海水をどうしての温度測定となるため、一工夫が必要かもしれないが、絶対温度よりも相対温度差が必要のため、可能なのではないかと思える。恐らくマントルの湧出点では温度が高く、沈降点では温度が低いと思われ、マントル対流の変化が見られるのではないかと思える。

ただすでにマントル対流の安定点は変化してしまっており、その歪を解消する方向に地球の、特に地表の変化が多発しているかもしれない。ただ例えば日本付近に限るとアメリカ西海岸付近に地殻の湧出点があり、この地殻が沈み込む点が日本海溝とすると、現在の湧出点を探せば、マントル対流が変化したかがわかるのではないかと思う。この地殻の温度変化をトレースすることは、いずれにしても重要と考えるので、衛星、または地表実測定により経時変化をトレースすることは重要かと思える。

いずれにしても昨今の異常現象がCO₂による温暖化のせいなどと府抜けたことを行ってないで、地球内部の変化と捉える必要があり、これに対する今後の予測。対応を考えるべきと思う。今後気象異常ばかりでなく、地殻変動も大きくなり、地震、火山活動も活発化するであろうと思う。場合によっては過去に起きた大陸移動のような自体も起こりうる。地球表面温度が上がったことをもっと良く調べるのが急務ではないだろうか？今後打ち上げられる地球観測衛星にこうした地表温度を測定できる観測器具を搭載できないだろうか？